

5. 藩世界の秩序

2025.10.16.大橋 幸泰

はじめに

本日の対象／「6藩から江戸時代史を見直す」、「11大名屋敷と江戸の都市社会」

→幕府と藩との二重の支配構造を持つ幕藩体制／中世と比較して、幕府が大きな権力を掌握

→藩には自律性はなかったのか／藩から見た近世秩序の特質について考える

1. 千葉拓真「6藩から江戸時代史を見直す」

(1) 教科書記述にみる藩と近世史研究

高校教科書は幕府中心史観／幕府の強力な権限のもと、藩は幕府に従属していたとの印象

→しかし、藩は幕法の影響を受けつつ、独自の藩法を制定して藩の秩序を維持

→地域の特性に応じた統治／多様な地域支配、再生産の仕組み

(2) 藩の多様性—大名家の歴史性という視点から

大名家の来歴、地域の課題、将軍家との親疎、などの条件により藩の秩序維持の方法は多様

- ・加賀藩／一向一揆の経験、将軍家との関係
- ・飯田藩／伊那谷という地域性、水野忠邦との関係
- ・土浦藩／霞ヶ浦の水害、幕府要職と領内統治の両立

→大名家の歴史性、支配領域の地域性が、藩の個別性に影響

(3) 「比較藩研究」の視角と藩の類型化

藩研究は特定の藩にのみ注目して検討されがち

→藩の多様性に留意して、藩の類型化などを目指すべき／幕府中心史観の相対化へ

*親藩・譜代・外様は同時代の類型化ではない

2. 岩淵怜治「11大名屋敷と江戸の都市社会」

(1) 藩政と江戸屋敷

参勤交代の制度／藩は国元のほか、江戸に政治機構を組織／江戸に多数の藩士を配置

→藩主の参勤交代時、国元から付き添う藩士のほか、「定居」（「定詰」）の藩士も存在

→家臣の江戸滞在が藩財政を圧迫／江戸屋敷の機能から説明するべき

*参勤交代は大名の経済的負担を増加させるために成立した政策、というのは俗説

(2) 勤番武士の生活

江戸に滞在した武士の生活／外出可能

→ただし、余暇の多くは屋敷内の長屋で過ごす／国元に比べて狭い間取り

(3) 出入町人

勤番武士の日常生活・余暇を支えたのが出入の町人／個人的な関係で出入を実現

→町人どうして大名屋敷出入の権利を売買／奢侈とみなされれば禁止／出入町人が扱う商品は多様

*江戸の大名屋敷は武士社会で完結してない／江戸下層民を含めて、都市社会の一端を表す

3. コメント

(1) 近世大名の家格

近世の大名制／親藩・譜代・外様は近代に規定されたカテゴリー

*大名化の2コース／徳川家譜代からのコース(譜代大名)と豊臣時代同僚からのコース(外様大名)

→近世同時代の大名類型／三家(徳川を称する尾張・紀伊・水戸)・家門(松平を称する)・その他／**大名の家格(序列)は殿席(江戸城の控室)により可視化**

→外様だからといって序列が下位に位置づけられていたのではない

(2) 藩研究の史学史

1990年代以降の藩研究／藩研究の対象を職制に限らない

→領民・出先機関(江戸・大坂など)を含めて、藩に関わることを総合的に描くことを志向

*早稲田大学を拠点に、1992年に発足した岡山藩研究会が嚆矢／「藩世界」と表現

→以後、「藩社会」、「藩地域」、「藩領社会」、「藩国」、などの用語が提起される／いずれにしても、**藩の自律(自立)性と地域秩序の多様性に注目**

(3) 「藩」という語の非時代性

「藩」の語／近世同時代の語ではない

→幕末維新期からさかんに使用され始め、廃藩置県時、初めて公的に使用／朝廷を守護する「藩屏」の意

*ただし、新井白石『藩翰譜』など、近世に使用例がないわけではない

→近世では、「家中」・「御家」と呼ぶのが一般的／近世国家は徳川家という大きな家に包摂される国家

→藩は近代的な官僚制機構ではない (←→ 一方で、近世は官僚制が構築しつつある時代との見方もあり)

おわりに

藩の自律(自立)性／大名家の個別性・歴史性・地域性により、何が秩序の根幹にあるかは多様

→中央集権的な幕藩体制といっても、近代の国家と地方との関係とは異質

【テキスト】

牧原成征編『日本史の現在4 近世』(山川出版社、2024年)

【参考文献】

松尾美恵子「近世大名の類別に関する一考察」(『徳川林政史研究所研究紀要』19、1985年)

岡山藩研究会編『藩世界の意識と関係』(岩田書院、2000年)

歴史科学協議会編／特集「藩からみた日本近世」(『歴史評論』676、2006年)

渡辺尚志編『藩地域の構造と変容』(岩田書院、2008年)

【付記】

・明日までに、Hoppiiieにて講義記録の提出を求める。